

中国・香港研究交流セミナー

学生参加人数：8名

プログラム内容

関西学院大学法学部政治学基礎演習の履修生が経済的高度成長を続ける中国および香港特別行政区を訪問し、それを支える政治的社会的環境と日中関係の問題を実業人からの現地聞き取り調査にて明らかにするとともに交流協定校である香港中文大学の学生との交流討論会を行いこれに対する将来のリーダーとなる若者間での交流・意見交換を実施し、実践的学習をおこなう。

特徴

1. 授業で学んだ政治学・政策分析理論を中国・香港の事例に応用し、問題発見・解決能力を高める。

大学での授業は教室内での理論と実際の理解で終わってしまうことが多い。このプログラムの特徴のひとつは1年間通じて行った政治学基礎演習で学んだ政治学・政策分析を基礎に、経済的に高度成長を続ける中国とその香港特別行政地区の光と影および日中関係の問題を政治の専門家や実業家への現地調査を通して体験学習することである。また問題の定義や設定は学生の主体性を重視し、彼ら自身が決定し、研究を行う。

2. 現地学生や社会との交流を通して異文化理解・交流を実践する。

もうひとつの特徴は滞在期間中、世界の名門香港中文大学で授業に参加したり同大学の学生との交流セミナーを通して国際的な場で学んだり、意見交換をしたり異文化コミュニケーションを体験実践することである。

3. 生活の支援

渡航前および現地でのオリエンテーションは7年もの現地での教職経験のある担当教員が中心に行うが、実施にあたり香港中文大学日本研究科および国際部などが支援・協力することになっている。

関西学院大学法学部水戸考道研究室 2012年

香港・中国研修旅行 スケジュール

(都合により予告なしに変更の可能性あり)

2月25日(土) 関空発 香港移動日

- 08.00 (時間厳守) 関空国際線出発ロビー4階、南団体受付カウンター61-62番
阪急交通社「E-Very」看板前集合
- 10.00 CX503 関空発
- 13.25 香港着後、香港での入国手続き後、荷物を受け取るベルトコンベヤーにて
荷物を受け取った後に集合。その後集団で通関、バスに移動。
- 15.30 Prudential Hotel チェックイン・オリエンテーション
住所 222 Nathan Road, TST, Kowloon, 電話 (香港国番号 852) 2311-3263
- 16.20 九龍地区歩きツアー後、日本占領中帝国陸軍香港総司令部のあったペニンシュラ
ホテル見学、国際金融センター香港特別区議会議事堂視察。
夕食会後解散。(移動には2階建てバス、フェリー、市電、地下鉄を活用)

2月26日(日) 香港市内観光後、香港海防博物館見学

- 7.00 モーニングコール
- 8.00 ホテル発市内観光および視察

2月27日(月) 香港中文大学1日研修

- 7.00 モーニングコール
- 8.00 ホテル発
- 8.30 香港中文大学学生食堂での朝食体験、
- 9.30 中文大学紹介(於日本研究会会議室)
- 10.00 日本人起業家 MRT 社長溝口氏によるによるセミナー
- 11.20-12.40 キャンパスツアー
- 12.45-14.13 中文大学ご招待飲茶交流会
- 14.30-16.30, 同大学日本研究専攻3年生との交流授業
- 16.30-17.20 同学生との交流会
- 19.00 溝口 MRT 社社長主催歓迎夕食会(於 InterContinental Hotel)

2月28日(火) 広東省深圳博物館および民俗村視察

- 7.00 モーニングコール
- 8.00 ホテル発 East Railway にて香港出国
- 9.00 中国入国後朝食会
- 10.30 深圳博物館
- 14.30 民俗村 (20.30迄)
- 21.30 夕食会後中国出国
- 23.30 Ear Railway にて香港に戻る (ホテルチェックイン 0.10頃)

2月29日(水) 視察後香港発、関空着後解散

午前 自由時間

- 13.00 ホテルロビー集合後、空港へ出発
- 14.40 チェックイン後ゲートへ
- 16.35 香港発
- 21.00 関空着、通関後解散

人の勢いに押しつぶされてしまいそうだ。こんなことを思ってしまうくらい、香港の人々は現に活気であふれていた。私達の泊まったホテル付近は綺麗に整備こそされていないが、良い意味で香港らしさが残っている場所だったように感じる。表には現地の人々が利用するであろう飲食店や服飾店。車道へ大きく飛び出した派手な看板たち。しかしその一方で裏口を覗いてみると、ちょっぴり怪しい空気が漂っているようにも思える。海外へ出ると、日本を相対的に見えることもわかった。物価が違うということもあるだろうが、香港は交通費が安い。そして安いにも関わらず清潔でモダンなプラットフォームや、乗客に優しい便利なシステムが導入されていた。もう一つ交通機関に関しては、2階建ての大きなバス。この大きなバスは路面電車と共に町中を巡っているのだが、どれも比較的混み合っていたことに驚いた。私の暮らしている大阪のバスはお世辞にも混み合っているとはいえず、むしろ貸し切り状態だからだ。

一日目、二日目で香港全体を見回り、香港島にある海防博物館で香港の歴史を学んだ。そして三日目に中文大学で日本語を専攻されている三回生の学生さんたちと交流した。交流の内容は中文大学の授業に参加。“香港における合法的性交年齢の是非”というテーマのディスカッションを見学し、それに対してなんらかのコメントや質問を投げかけるというものだった。日本語を専攻している学生は皆、二回生時に一年間日本の大学へ留学するというのだが、それでも驚くほどの語学力だった。ディスカッションも、テーマがテーマだけに難しいとことがあったと思われるが、誠実かつ的確な議論が行われていた。授業のあとにも学生さんたちと雑談をかわしたり、交流を深める時間をとっていただき、私は主に日本への留学について話すことができた。留学生と交流することは、たしかに日本にいてもできることかもしれない。しかし、中文大学のキャンパス・設備・雰囲気感動したことも事実である。

四日目は中国の深圳へ行った。前日、中文大学の学生たちが口を揃えて“怖い”、“危ない”のキーワードを発していたので少しの不安をいただいていた。深圳へつくと、その意味がわかった。香港のあの活気はなく、どこか暗い雰囲気だったからだ。天気のせいかもしれないが、一本の川を隔てているだけなのに

そこには環境の差が大きく表れていたように感じたのだ。香港では誰でも話せた英語が、深圳では全く通じなかったことにも驚いた。暗い雰囲気、と書いたが国の施設や博物館へいくとそれはなくなった。開発に供なり治安維持もいっそう強化されたそう。博物館を訪れた後は民族村というテーマパークに近い、中国建築物のミニチュアや民族のショーが行われている場所へと移った。そこで感じた中国の文化は素晴らしいものであった。たしかに深圳は香港に比べ環境は劣っているかもしれない。しかし、それをすべて近代化する。もしくはグローバル化するというのは、正解ではないと感じた。三日目、香港でビジネスをしている実業家の方のお話を聞く機会があったのだが、その方が「一番大切なのは母国語。その次に英語だ。」とおっしゃっていたのを思い出した。高校生のとき、“日本の母国語は英語にすべきか”というテーマの議論でほぼ全員が賛成と言い出したので成り立たなかったことがあった。私もそのときは賛成派であったが、今は日本語ももっと大切にしていけばいいと思う。

今回のセミナーにおいて異なる文化をより身近に触れることができたのは貴重な体験であったし、もっと海外について勉強したい。もっと英語が話せるようになってたくさんの人々と意見を交わしたい。といった自己啓発にもつながった。大学生活の一年目で香港・中国セミナーという経験をさせていただいたことに感謝すると共に、非常に意義のあるこのようなセミナー是非続けてほしいと思う。

香港・中国研修感想文 栗山 莉瑛子

今回の香港・中国研修は5日間という短い期間でしたが、私にとってこの経験はとても実り多いものとなりました。初めて香港と中国を訪れましたが、人・物・空気全てが新鮮で日本とは全く違い驚きました。香港の第一印象は、人や物が多く皆歩くのが早いので先へ先へと急いでいる場所のような感じがしました。

今回の研修目的である中国・香港の光と影を見つめるにあたっては、物乞いをする人や衛生的に清潔ではないところで生活をしている人など多く見かけました。路店にはあらゆる物があつてにぎやかで人がごった返していました。一方そこから少しバスやタクシーで移動すると、高級ホテルや高級ブランド店が多く立ち並び全く風景が異なります。またビルやマンションの建設工事が街中のいたるところで行われていました。バスガイドさんによるとこれは発展途中である証拠で、古い建物もどんどん建て直されているようです。

また中文大学でご活躍されている溝口社長のお話の中で、香港の学生は政治や経済に興味がなく文化に興味があるということが印象的でした。3日目に訪れた海防博物館では香港の英国や日本の占領地であった頃の写真や兵士の軍服・武器などを見て、今までの複雑な歴史を詳しく知ることができました。

香港の学生が文化に強い関心を持っているのはやはり今までの絡み合った歴史があるからではないでしょうか。その数々の過去を乗り越えて今の香港の発展に繋がったのだと香港の人々は感じているのだと思います。

さらに日本の企業がまだまだ世界で通用していけるということもお話を伺って感じました。今は中国が人口も多く発展していて日本企業はそれに抜かされていっているとニュースや新聞でしばしば目にしますが、日本企業は芯が強く技術能力は非常に優れていると伺いました。ただ足りないものは世界にそれを発信・浸透させていく力が弱いということで、欠点を知ることができました。

もう一つの目的である中文大学での体験ではとても有意義な時間を過ごすことができました。学食を食べたり、キャンパス内にあるレストランで食事をしたり中文大学の学生と同じような生活を体験しました。今回交流したのは日本語検定1級合格者の学生たちで、参加した授業は強姦罪に関する法律的にも社会的にも難しい問題についてのディベートでしたが弁論や質疑応答がしっかりと円滑に行われていました。彼らは英語・北京語・広東語・日本語の4ヶ国語を話すことができます。その中文大学の学生の高い学習能力に驚き、私ももっと語学を勉強したいと強く触発されました。交流セミナーでは学生たちに日本語を学ぼうと思ったきっかけを聞いたり、将来の夢などについてお話することができてとても楽しかったです。

4日目は中国の深圳を訪れました。まず近代的な建物である深圳博物館で現在の中国の発展に至るまでの道のりを見ることができました。ここで見たものは少しずつ発展してきた中国の姿でした。土木作業から始まり多くの国々と締結して世界的に認められるようになり、懸命に前進

していく中国の姿に感銘を受けました。この力強い姿勢を日本も見習うべきだと感じました。

次に民俗村でミニチュアの万里の長城やチベットやウイグルの民族の様子を垣間見ることができました。さらにここでは中国の様々な伝統を表す民族ショーを観ました。衣装や舞台装置のきらびやかでその壮大さに圧倒されました。

私は今まで中国が経済的・産業的に発展していることは知っていましたが、それまでの道のりや苦勞や工夫などは全く知りませんでした。今回の訪問で香港・中国が持つ、発展への国の力強さを肌で感じる事ができました。確かにまだまだ建設中で生活水準が低いところもありました。しかし、前へと着実に動いている姿が街全体や学生から強く伝わってきました。私は発展してきた国もすごいと思いますが、それについてきた香港人・中国人の強さに圧倒されました。急激な発展は国民にとっても大変なものだと思います。そして発展する一方で民俗村など昔の様子を残して知らせる場所もあることに彼らの歴史を大切に作る心が伝わってきました。

また中文大学の学生と交流したとき、日本は親切な人が多く治安がいいので住みやすいと聞きました。日本にいと悲しい事件を多く耳にするのであまり実感したことはありませんでしたが、これを聞いて日本の社会的な面に対して自信を持つことができました。さらに日本人は内に閉じこもる傾向があることに気づかされました。私はもっと留学やボランティア活動など国際的な幅広い活動をしていこうと思いました。

このような研修は引き続いて行なっていくべきだと思います。なぜかというところこの経験を通して私自身の香港・中国に対する見方、考え方が大きく変わり、さらにその立場から日本を客観的に見る事ができたからです。まさに発展途中の国で、その風を感じ歴史を感じ人に触れられたことはこれからの私の人生において物事を観る視点が広がりました。忘れられない素晴らしい体験となりました。この経験を活かして、これから私に何ができるのか何をしていけばいいのかを国際的な視点から模索し続けていきたいと思っています。

このような経験を支援して下さった法学部、現在の香港の状況についてあらゆる面からお話して下さった溝口社長ありがとうございました。

最後に基礎ゼミで日本や外国の諸問題について考察したり論文発表などの活発な学習機会を与え、またこの研修旅行を引率して下さり色々なところに連れて行って多くのことを教えて下さった水戸孝道先生、1年間ありがとうございました。

今回5日間香港・中国研修に参加させて頂きました。5日間だけでしたが世界が大きく変わったような気がします。そもそも海外に行くのは年少の頃以来であり、物心がついてからは初めてでした。近年グローバル化の波が押し寄せ、世界の中の日本という位置づけであり、世界を意識することが多い年代になってきましたが、実際ニュースなどで世界を感じるだけで自分自身あまり世界を実感することはありませんでした。しかし、この研修で経済発展著しい香港、中国深圳を視察し、大げさですがグローバルの第一歩の部分を実感することができ、今後の大学生活にも影響する5日間になりました。

今回、香港中国深圳の都市部の観光や博物館、民俗村の見学、中文大学の学生や現地の日本人の実業家の方との交流など多くの体験をすることができました。僕は、香港に行くまではあまり香港について知りませんでした。日本よりも遅れている国であり、マフィアが存在し治安が悪いというイメージしかありませんでした。しかし、香港と中国深圳の雰囲気を感じ、世界から見ても活発に経済発展している様子や活気というものを実感することができ、香港の印象も大きく変わりました。現在日本は発展が下降気味で落ち目であり、これらの国とは対極に位置していますが、香港において日本の製品が数多くありましたし、日本の建設会社が作った海底トンネルや高層ビルなどが数多くあり、日本の良いところがたくさんありました。このような技術をどんどん世界に発信してほしいと感じました。また、町には日本のデパートや店も多くあり、日本の事が好きな香港人も多いことがわかりました。今日本では暗いニュースばかり報道されていますが、香港において日本の企業や文化が進出し頑張っていることがわかりたのもしくも感じました。

そして、この5日間の研修で最も刺激を受けたのは、中文大学の日本研究科の学生との交流です。中文大学は世界でもトップクラスの実力であり、日本の京都大学と肩を並べる大学です。僕は中文大学に行くまで、そのような大学の学生たちはどのような人たちで、どんなことを考えているのだろうかと内心ドキドキしていました。中文大学の日本研究科の学生たちとは昼食の時に初めて会いましたが、気さくでとてもやさしい印象を受けました。しかしその後、彼らの授業に参加させて頂いたのですが、そのような印象は一変しました。その授業の内容というのは、香港における性交年齢の引き下げの是非を問う討論でした。賛成派と反対派に分かれてそれぞれの主張を発表しました。そのような内容の討論は日本人にとっても比較的ややこしく、難しい単語が数多く出てきます。さらに討論するためにはたくさんの資料を研究し日本語にまとめなければなりません。しかし、彼らはそれを難なくこなしていました。また、相手の主張が終わった後、相手にその論拠などを質問するのですが、その際に異国の言葉である日本語で激しいトークバトルも展開されました。それはまるで、日本人同士が討論している光景に見えました。彼らのほとんどが大学から日本語を学び始めたそうです。日本に去年1年間留学していたそうですが、その上達ぶりには目を見張るものがありました。自分たち日本の大学生は、そのような優秀な大学

生と将来仕事をしていくこととなります。日本人の大学生は、自分もそうですが、単位をとるための勉強しかしない傾向にあります。もっと色々なことに挑戦し自分を高めていかなければと将来彼らと戦えないことを痛感させられました。

討論が終わった後に、彼らとともにカフェに行きお話をすることができました。さきほどの討論から想像して、勉強ばかりしているのではないかと最初は思いましたが、日本に留学した話から始まり、学生生活、部活動、バイト、恋愛、お酒の話など色々な話ができ、日本の大学生となんら変わらないということがわかりました。また、そのような話の中で印象的だったのは、香港と中国の関係です。香港の学生たちは中国本国をいのように思っていないという事です。息子を比較的自由的な香港人にしようと中国から出産直前の妊婦が数多く流入しているようでこれが社会問題となっているようでした。中文大学においても香港の学生と中国人の留学生との間で衝突が起こる事があると言っていました。香港と中国は全く違う文化であり同じ中国としてみないでほしいとも言っていました。このような実情は、実際に現地の人と話してみないとわからないことであり、このような面からみても今回香港の学生と交流できたことはいい経験となりました。

また、現地の日本人の実業家の方にお話を聞く機会もありました。その方は、会社の利益だけではなく、学生たちのために多くの支援活動をされている方でした。海外での仕事は大変そうでしたが、社会の先輩として異国の地で活躍され、積極的に支援活動をなさっている姿は、見習うべき点が多く、自分もグローバルに活躍する社会人になりたいと思いました。

今回の研修は5日間という短い期間で行われました。法学部の方からもご支援を頂き個人の負担も少なく済みました。水戸先生のリーダーシップの下、大変充実した5日間を過ごすことができました。この研修に参加するまで世界について身近に感じることはほとんどなく、日本という国だけをみていました。しかし、僕たちは日本で生活していますが、同じ時間を違う所で過ごす外国人の存在というのを実感することができた研修であったとおもいます。今回研修に参加したことでまた新たな視野というものを身につけることができたと思います。この研修をきっかけとし残りの大学生活を有意義なものにできるように頑張っていかなければならないと思いました。

このような充実し新たな視野を広げることができたのも、お忙しい中で色々企画し、実行して下さった水戸先生のおかげです。卓上では学べないその国の雰囲気や文化を学ぶことができました。今後もこのようなプログラムをより参加しやすいために法学部の方でも色々支援していただければと思います。

今回の香港・中国研修を通して、香港はとてにぎやかで発展した街だということを実感しました。香港はわたしが想像していたイメージ通り大きい看板やいろいろなお店が密集しており、高級マンションやホテル、ブランドのお店がたくさん並ぶ華やかな街でした。しかし、盗難やスリが多かったり、偽者の商品が数多くあったり治安が悪いという部分もありました。また、中心街を少し離れると薄汚い家や、桶を持って賄賂を求めるホームレスの姿も見られ、貧富の差を感じました。香港の街を歩いているとマクドナルドや牛丼店の吉野家、セブンイレブン等日本でも良く見られるお店が多くあり、スーパーマーケットには日本の食品がたくさん取り扱われていて驚きました。

2日目には、ビクトリアピーク、レパルスベイ、スタンレーマーケット、黄大仙など香港で有名な場所を観光し、自由行動の時間には海防博物館を見学しました。海防博物館は海際の高台に建築されていて、エレベーターで最上階の8階まで上がると、丘の上全体が博物館になっていて、イギリス軍が使用していた軍事施設などを見ることができました。また、博物館は全部で13の展示室に分かれていて明代・清代・英国統治時代・日本占領時代・戦後英国統治時代・中国返還後というふうに並んでいて、実際に使用された衣装や武器、写真や模型、パネルを交えて香港の歴史に触れることができました。

3日目には、香港中文大学へ行き、日本人実業家の溝口社長のお話を聞かせていただき、授業にも参加させていただきました。授業では「香港における合法的性交年齢の引き下げの是非」というテーマで賛成派と反対派の方の意見を聞かせていただき、その後ディベートにも少し参加させていただきました。賛成派のグループと反対派のグループどちらも様々な視点からこのテーマについて考えて発表されていて素晴らしかったです。また、香港の学生の方は授業への態度がとても積極的で、ディベートもすごく盛り上がっていて、いつも受動的な態度で授業に参加しているわたしには学ぶことが多くありました。今回このセミナーに参加されていた香港の学生の皆さんは驚くほど日本語が堪能で、言葉の壁を全く感じることなく交流することができました。香港の学生さんとの交流の際、日本で驚いたことを聞いてみたところ、一人暮らしの学生が多い、タバコを吸う人が多い、交通費が高い、人が親切などといった意見があり、意外な意見もありました。また、どの学生の方も日本のアニメが好きということを知って驚きました。今回の溝口社長のセミナーや、香港の学生の方との交流セミナーを通して、失敗を恐れずに積極的に物事に取り組む姿勢を学ぶことができました。また、外国の学生の方との交流には少し不安もありましたが、とても良い意見交換ができ、とても楽しく貴重な体験となりました。

4日目は、中国の深セン博物館と中国民俗文化村を観光しました。中国民俗文化村では、中国に存在する56の各民族の民俗芸能、文化、暮らしにぶりに触れることができ、広い園内には万里の長城などのミニチュアがありました。また、民族衣装を着た人々が様々な歌

や踊りを披露してくれ、特に園内の劇場で行われる舞踏ショーはとても華やかで迫力のある舞台で素晴らしかったです。中国研修で驚いたことは、香港の人はほとんどの人が上手に英語を話せるのに対して、中国本土の人はほとんどの人が英語を全く話すことができないということです。深センに入ったところから全く英語が通じなくなったので、コミュニケーションをとるのがとても大変でした。

今回 5 日間の研修を通していろいろな体験をし、多くの発見や驚き、学んだことがありました。香港の建物には暖房の設備がなく、外が寒くても室内はクーラーかかっているということ、また、バス・タクシー・電車・などの交通費が日本では考えられないほど安いということなどです。電車の中の作りも日本と違って、バスや路面電車は 2 階建てのものが多くて驚きました。わたしは今回の研修で初めて香港へ行ったので、全てのことが新鮮でしたし、実際に大学に行って異文化コミュニケーションを体験するのも初めてだったのでとても良い経験となりました。また、溝口社長のセミナーや交流セミナーを通してもっと積極的にいろんなことに挑戦していかなければならないと感じました。普通に旅行として行っただけでは決してできない体験もでき、今回の研修で学んだことも多くあったので、この香港・中国研修は自分自身に新しい発見や刺激を与えてくれる良い機会であり、とても意味のある研修旅行だったと思います。

感想

香港は近代的になり発展しつつある都市という感じで、あちこちで目にする建物の建設ラッシュが印象深かった。その足場はすべて竹で中国からもってくるらしい。また、香港の建物は耐震構造になっておらず、耐震強度は0だそう。街中にはブランド物を売っている高級店がたくさんあり、香港で成功を取めた方の豪邸が並ぶ風水的に良いとされている地域は、何億もする家がすぐ完売してしまうらしい。一方で一般人が住むアパートのような、古くて、汚く、窓からのびた竿にかかる洗濯物が空をはためいているような地域もあった。これが現在どんどん発展してきている香港の光と闇なのかもしれない。そして、とにかく、バスの多さにびっくりした。ガイドさんの話では5500台走っているらしい。車も人も多く、排気ガスのせいで空気は悪かった。また、涼しくても冷房をつけている店があり、とてもじゃないけどエコな街とはいえないと感じた。電車は外国人でも大変わかりやすく移動にとっても便利だった。欠点をあげると、100ドル札と50ドル札が入らない券売機があるということ。地下鉄は、シンセンのほうがハイテクだと感じた。きっぷがコインのような形のICチップのようなもので、それをタッチして構内に入る。出るときはそのコインを改札に入れて出る。駅の中もきれいで、中国のイメージを裏返され、中国の発展を実感した。中国も香港も電車の扉と構内の扉の二重扉になっており、これは転落防止のためだと考えられる。大阪や関西の地下鉄はまだ二重扉が整備されていないところも多いので、見習うべき点だと思う。また、街中で日本の雑誌を売っていたり、日本の飲食店やコンビニがあったり、店で売っているお菓子はほとんどが日本製で驚いた。日本の製品は人気があるらしく、他にも日本の化粧品などがあった。初日でほとんどの乗り物に乗らせていただいた。バス・路面電車・フェリー・地下鉄どれも料金はとても安く、快適だった。また、飲茶でも異国の文化を感じることができた。例えば、近くの人にお茶を注いでもらったら、左手をグーのようにしてトントンと机をたたく。これはありがたいのサインである。また、中国は、皿がきれいに洗われていない可能性があるらしく、それを気にする人は、テーブルのお茶で食器やお箸、れんげを洗うそう。また、飲食店ではチップを払わなければならない、だいたい食事代の10%がすでに領収書には加算してあった。外国では食事異文化体験になり、とても楽しかった。

そして、合わせていただいた社長さんの話はとても興味深かった。お仕事の傍ら、香港の様々な大学と学生を支援している方で、行われている活動について・香港の教育について・経済について・日本の企業のことなど様々な話を聞かせてくださった。海外で成功された方の話はとてもためになったし、自分が就職するときのことについても考えさせられた。支援のされ方や、アクティブに自分から動き、様々なことを発信する姿勢は見習いたいと感じた。

今回の研修で一番印象に残っているのは香港の中文大学の学生との交流である。同年代の学生と異国での交流は、とても良い刺激になった。学校はとても広く、何より設備が充実していて、学生にとっても教授にとっても学習に適した環境が整っていると感じた。難点

は、移動距離が長いことだ。無料のバスはあるが、休み時間が15分しかないようなので校舎間の移動は大変だろう。学校に飲茶があり、学生も週に一回は食べにくらしい。とてもうらやましかった。あちらの学生は日本語学科の方だったので、その日本語での授業を見学させていただいたが、その日本語の流暢さに驚いた。あるテーマについてディスカッションを行うという内容であったのだが、ディスカッションは相手の意見を理解した上で、反論するものであり、思いついた意見を即興で言葉にしなければいけない。それを、彼らにとっては外国語である日本語で行っており、素晴らしいと感じた。生徒には1年間の日本への留学が義務付けられているらしく、大学から日本語の勉強を始めたばかりの人が大半なのに、上達の早さに感心した。また、ほとんどの学生が英語・広東語・北京語も話すことができるということにも驚き、自分も英語や第二外国語のスペイン語にもっと真剣に取り組むべきなのではないかと考えさせられた。やはり、他国の人とのコミュニケーション方法として最も重要なのは、「言葉」だと思う。中文大学の学生との交流はとても楽しかったのだが、これは、自分の母国語である日本語で会話することができたということ、そして、相手の学生さんたちがネイティブ並みの日本語の理解・運用能力を持っていたということが大きいと思う。一方で、流暢に話すことができなくても、コミュニケーションをとることはできる、ということも、この研修を通して実感することができた。英語が使えない店では、漢字を書いて説明したり、片言の英語の方と話す場合は、自分の英語力でも気にならず、ゆっくり話してくれるので英語がネイティブの方よりも逆にわかりやすくも感じた。

また、今回のような研修の意義の有無について、私は、今後もこのような機会を学生に与えるべきだと考える。その理由についてまず挙げるのが、日本の大学生は海外に出たがらないという言葉をよく耳にするが、普通の学生にはそのような機会が少ないからなのではないか。留学だと、長い期間であるため、ためらってしまう学生も多いかもしれないし、旅行だと、遊びや買い物ばかりに重点をおいてしまいがちである。今回の研修は5日間という短い期間だったが様々な経験をさせていただいた。このような留学と旅行の間、学校主催の研修という形のプログラムがあったら、学生も気軽に海外での文化体験ができるのではないか。香港は日本からそう離れていない国であるし、香港を含む中国の成長には著しいものがある。実際目で見て体感しなければわからないことがたくさんあるだろう。そのパワーを間近で見ることでこれからの、国際的な視点を養うことにもつながると考える。

今回の研修は、私にとって初めての海外渡航でしたが、本当に素晴らしい経験になりました。

香港の空港に降り立った時から、日本との規模の違いや発達した交通網に驚きました。空港の面積もそうですが、地下鉄は2ドアで整備され、そういった点では日本よりも安全性に優れており、運賃の安さからも、市民にやさしい街であると感じました。その一方で、ビルの建設現場の足場に未だに竹が使われており、昔ながらの伝統を大事にする面もあることに好感を持ちました。

なによりも、街行く人に活気があり、街の雰囲気になれるまでは、街を歩くだけで、自分のエネルギーが吸い取られている気がし、またそこから発せられるエネルギーが街全体を活気づけて、現在の好景気や経済発展につながっているのではないかと感じました。香港の国会議事堂にあたる立法院は、イギリス統治の名残がのこり、おしゃれな外観でした。

二日目に訪れた、香港海防博物館には、日本に関する展示もありました、閉館まであまり時間がなくすべての展示を鑑賞できたわけではありませんが、イギリスの展示は照明も内容も明るいものであるのにくらべ、日本の展示は照明も暗く、苦しみや悲しみを前面に押し出している印象を持ちました。

また、夜に散策した cause way bay は、forever21 などがあり若者の街でした、発展し続ける街がある一方で、バスでの移動時には、トタンで作られた平屋の家が集まる集落のようなものもあり、進化を遂げる一方でこういった集落やそこに住む人々は、何を感じ暮らしているのか、とても興味深く思いました。

3日目は、水戸先生が以前勤めていた香港中文大学の日本研究学科の学生の方と、昼食をとり授業に参加させていただきました、香港における法的な性交年齢引き下げの是非について、資料をもとに賛成派・反対派に分かれてのディスカッションやそれに関する質疑応答など、アドリブも含めてすべて日本語で行われとても高度な授業だと感じました。日本語が母語である者にとっても、資料を探しテーマに関する自分の意見をまとめたり論拠をあげること、質問されたことに即座に対応する事は訓練がいることです。しかし、学生たちは、質問に対しても瞬時に対応し、的確な意見を述べていました。

香港中文大学を訪れて、キャンパスの規模や、充実した設備、そして日本研究学科の学生と話をする中でとても刺激をうけ、自分自身も、もっともっとスキルアップのために自ら行動していかなければいけないと強く感じました。

私が今回出会った学生は日本のアニメやアイドルから、日本に興味を持ち、大学で日本語を学んでいる人が多かったのですが、わずか1.2年の学習期間で、日常会話やディスカッションをほぼ完ぺきにこなしていました。中学から英語を学んでいるにもかかわらず、一向に上達しない自身にふがいなさを感じるとともに、もっと一生懸命に取り組めば自分にも上達のチャンスはあるのだと感じることができました。また、香港の学生は、

中国に対してあまり良い印象をいただいておらず、中国の文化と香港の文化が同一視されることをとても嫌っていました。4日目に訪れる予定の深センに関する注意を沢山されました。

そして少し覚悟して迎えた4日目の深センの視察、深センの駅を降り国境を越え中国に入国すると、発展した街ではあるものの香港とは全く違う雰囲気にも包まれた町は少し怖かったです。発展し、駅や街も区画整備され、きれいですが香港に比べると閑散としており、活気もないように感じました。深セン博物館で深セン発展の歴史の展示を鑑賞しましたが、決して大きくない漁村をここまで発展させた中国の力はやはり絶大で組織力があるとおもいます。

民族村でみた二つのショーは、どちらも素晴らしかったです。雑技団のようなショーでは出演する演者の年齢も幅広く、また馬や牛、羊などの動物も出演していました。日本には真似のできない中国独自のお家芸であり、他国をまねる必要性はないように感じます。

今回の研修を通して、私は大学生活のなかで、もっと多くの国に足を運びその国の空気、雰囲気、文化に直に触れたいと思いました。そのためにはまず、第二外国語で履修しているスペイン語、そして英語をまずは上達させ、より多くの人とコミュニケーションが取れるように志をもって日頃の学習を行おうと思います。

就職活動で必要であるから英語を勉強するのではなく、学生が自発的に意欲を持って英語の上達をするためには、しゃべることができなくても海外に出向き人と触れ合うことが大切だと思います。中文大学の最終目標は海外留学を目指すすべての生徒を海外に送り出すことである。と紹介 VIDEO でいっていましたが、実際日本に留学した学生にも、留学を強く勧められました。人生が変わるから絶対に行ったほうがいい。

関西学院大学は、英語の指導や留学に熱心だとおもいますが、留学を考えたことのない学生にもこのような機会を与えることで、より一層国際的な大学へと躍進できるように感じます。

海外に行く機会に恵まれない学生にとって、今回のような制度は意義あるものとおもいます。日本は素晴らしい国で、海外にわざわざでて行く必要はないと思っていましたが、さまざまな国の文化や価値観、言語に触れ、とまどいながらもその土地の良さを発見し、人と触れ合うことは、どのような道に進むにせよ良い影響を与えてくれるとおもいます。これらは、日本で生活していくうえでも重要なことであり、このような制度を機に海外に興味を持ち、学習意欲を向上させる学生も少なくないはずです。

香港はイギリスの植民地から解放された後も、中国とは異なる独自の発展を続けており、活気ある街や人は、経済的にもそして政治や人にも元気がなくなりかけている日本にとって学ぶべきところがたくさんある街だとおもいます。

家族とのコミュニケーションはもちろん、今すぐにも私たちにできることがあるように感じました。

最後に、このような機会を与えてくださった法学部の方、そして水戸先生、本当にありがとうございました。

香港・中国研修報告書

山崎和佳

今回の研修目的は2つありました。1つ目は高度経済成長が続いている中国とその特別行政地区とされている香港の光と影、及び日中関係の問題について香港での実業家への現地調査を通して体験学習をすることであり、2つ目の目的は香港中文大学の授業に参加し、同大学の学生との交流セミナーを通して異文化コミュニケーションを体験学習することでした。私は、今回の5日間の香港中国研修で、この2つの目的を果たすことができたと同時に、中国・香港・日本に対する考え方が大きく変わりました。

香港に着いてバスでホテルまで向かう道中まず驚いたのは、ビルの高さでした。最上階は霧で見えないくらいの高さで、至る所で新たな高層ビルの建設工事がされており、そのうえ、足場は鉄パイプではなくすべて竹で作られ、耐震構造も全くされていないというのは、地震の多い日本では考えられないことなので、少し不安を感じました。また、日本では外観を崩す・近隣に迷惑、などの理由から大半のマンションは白色に近いものばかりですが、香港はすべて風水で決めるらしくピンク、黄色、緑など奇抜な色の住居ばかりで、街の雰囲気は日本との文化の違いを実感しました。

初日は、二階建てバス、フェリー、路面電車、地下鉄などの公共交通機関を使って香港を視察しました。香港中国ともに交通費がとても安く、街を走るバスはほとんど二階建てばかりで、交通手段という面だけでも日本と大きく違っていました。地下鉄は線路への転落防止のため二重扉になっていたり、車両が一貫されていたり、切符もプラスチック製で再利用され、日本よりも確実に進んでいました。初めに訪れた女人街では、大勢の人でにぎわっており、各店の大きなネオンの看板が光っていて活気であふれていました。一方、各国の有名人が訪れるペニンシュラホテルのある付近は、女人街とはまた違った華やかさがあり、トイレにはメイドの方が待機しており手を洗うと紙を渡してくれるほどで、日本にも滅多にないくらい豪勢で気品があるホテルでした。これらの綺麗な夜景をスターフェリー号の上から眺めながら、香港島へ渡り、国会議事堂や香港金融センターを見学し、またその壮大さに圧倒されました。特に世界で三番目の超高層な金融センターは香港の急速な経済成長の勢いを感じました。

二日目は観光名所を巡るバスツアーでした。黄大仙は香港で最も有名な道教のお寺で、ここでは線香を持って座り込んで参拝している現地の方がたくさんいて、宗教への信仰の深さと日本との文化の違いを学ぶことができました。移動中はバスガイドの方が香港の紹介をしてくださいました。いま香港は好景気なため、レパルスベイの近くの一軒家を購入するには十億円はくだらないそうで香港経済の強さが伝わってきました。しかし、道路では自動車優先で歩行者に対する対人保険がないことや、観光地点に着くたびにスリが多いから注意するようにと忠告される、という点などについては経済発展に治安の改善が追い

ついていないという香港の現状の光と影の一部が表れていました。ツアーが終了し、香港海防博物館へ行きました。あまり時間が無くじっくりと見学することができなかつたのですが、日本が戦争時代に香港にどんなことをしてきたのか学ぶことができ今後どのように関わっていくべきか考えさせられました。

三日目は、今回の研修において最も重要といえる中文大学への訪問と実業家への現地調査をしました。中文大学の敷地はバスがなければ移動できないほどの広さでおどろきましたが、そのうえ全面禁煙というのは是非日本の大学にも取り入れてほしいと思いました。学生との交流セミナーでは、日本語を専攻している学生の方々の「合法性交年齢引き下げの是非」についてのディスカッションに参加しましたが、たった二年しか勉強していない皆さんの日本語の流暢さに驚きました。この学生の方々は、香港の公用語である広東語のほかに、北京語、英語、日本語が話せ、勉学への熱心さに感心しました。セミナーの後は交流できる時間があり、すぐに打ち解けることができ、それぞれの国の流行の話などをして異文化コミュニケーションをとることができました。

実業家との対談では、今後活かしていける話をたくさん聞かせていただきました。日本の会社では失敗するとすぐ降格されるために自ら挑戦することを恐れてしまいがちですが、その様に何にも手を付けなかつたら、後々人生を振り返った時に何も残っていないというお話にはすごく関心を持ちました。また、事業の経営のほかに学生との交流もされていて、日本の学生が4回生になると学校に行かずに就職活動をするのはもったいない、と仰っていて本当にその通りだと思いました。日本は東日本大震災の急速な復興や、莫大な国債を抱えているにもかかわらずギリシャほどの非難を受けていない理由など、外国から評価されている日本のよさも話してくださり、客観的に日本を知ることができ、今後改善していくべきことを学んだと同時に、自国に対する誇りも高められ、とても貴重な話を聞いた時間でした。

四日目は、中国の深圳の深圳博物館と民俗村へ行きました。博物館では、小さな漁村だった深圳が八百万人の大都市になる歴史を知ることができました。民俗村では中国の歴史的建造物の小型模型や諸民族の住居が再現されており、夜屋外で開催されるショーは中国の力を見せつけられるような盛大なもので、感動しました。

以前は、中国に対して何となく怖いというイメージを持っていましたが、今回の研修を通して想像以上に発展している香港・中国を見て日本が取り入れるべき光の面がたくさんあることを知りました。一方で影の面としては、物乞い人や客引きの多さ、トイレの設備や交通ルールの拙さなどが見受けられました。

今回の香港・中国研修がなければ中文大学の学生との交流や実業家との対談をすることはできないだろうし、異文化に触れることで、今後の日本のあり方や、コミュニケーション手段としての英語の大切さを感じ、考えさせられる貴重な契機になり今後の人生設計に活かしていこうと思います。